

新しい都市型
高齢社会における
地域と大学の統合知の拠点

地域の
持続的
発展に向けて





MESSAGE



学長メッセージ

地域の皆さまにおかれましては、日頃から本学の教育・研究活動にひとかたならぬご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。私どもは、大学は地域との連携を深めてこそ、その存在意義が増すものと考えております。大学には、なによりも多様な教育的資源がありますので、これを活用し、地域における知の拠点として発展するのが本学の重要な任務となります。

本学はこれまで、健康や教育、地域活性化などをテーマに活発な地域交流活動を続けてまいりました。三鷹市における認知症地域連携、八王子市におけるまちづくりフォーラムの開催、羽村市内の中学生に対する自動体外式除細動器(AED)講習の実施、多摩地域における観光事業への学生参加など、その内容は多岐にわたっています。

その成果を元に、このたび文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択され、平成25年度より5カ年間の活動を行うこととなりました。この事業は、自治体と連携して全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を国が支援するもので、全国319件の応募申請のうち、52件が採択されました。本学のこれまでの取り組みが、評価されたものと考えております。

今回の事業は、「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」というテーマのもと、「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」の3分野を軸に、本学のこれまでの地域交流活動をさらに全学的に発展させていくものとなっています。また、活動の舞台として東京都三鷹市・八王子市・羽村市と強力なパートナーシップを構築していきます。

この事業紹介パンフレットは、今回の採択事業の内容紹介とともに、今後の地域交流活動の新たな展開を示すものです。お読みいただき、ぜひご意見をお寄せください。

本学の地域交流に対するご厚情に感謝するとともに、これからのご指導ご助言をお願い申し上げます。

学長 跡見 裕

CONTENTS

MESSAGE

杏林大学学長	2
三鷹市長様	3
八王子市長様	3
羽村市長様	3

杏林CCRCの全体像

1 杏林大学と地域とのかかわり	4
2 事業の概要	5
3 杏林CCRCの具体的な取り組み	6・7



三鷹市長 清原慶子様

「地(知)の拠点整備事業」の採択を心よりお慶び申し上げます。杏林大学は、1966年に三鷹の地に創設されて以来、長年にわたり三鷹市の協働のパートナーとして、保健・医療の連携や学術・研究分野での連携を共に進めてきました。COC事業の推進に向け、2016年予定の新キャンパス移転に伴う新たな取り組みとともに、今年9月に締結した「包括的な連携協定」による三鷹市を地(知)の拠点とした地域での協働が充実されることを大いに期待しています。



八王子市長 石森孝志様

昭和45年、杏林大学が八王子に開校して以来、多くの卒業生が社会の様々な分野で活躍されています。また、本市の学園都市づくりの主要事業である「八王子学園都市大学」に毎年、多くの講座をご提供いただいております。

この度、国の「地(知)の拠点整備事業」の採択を受け、より推進される地域との連携事業などにより、貴学の知的資源が地域に還元され、高齢化社会や災害対応などの地域課題の解決が図られていくものと大いに期待しています。



羽村市長 並木心様

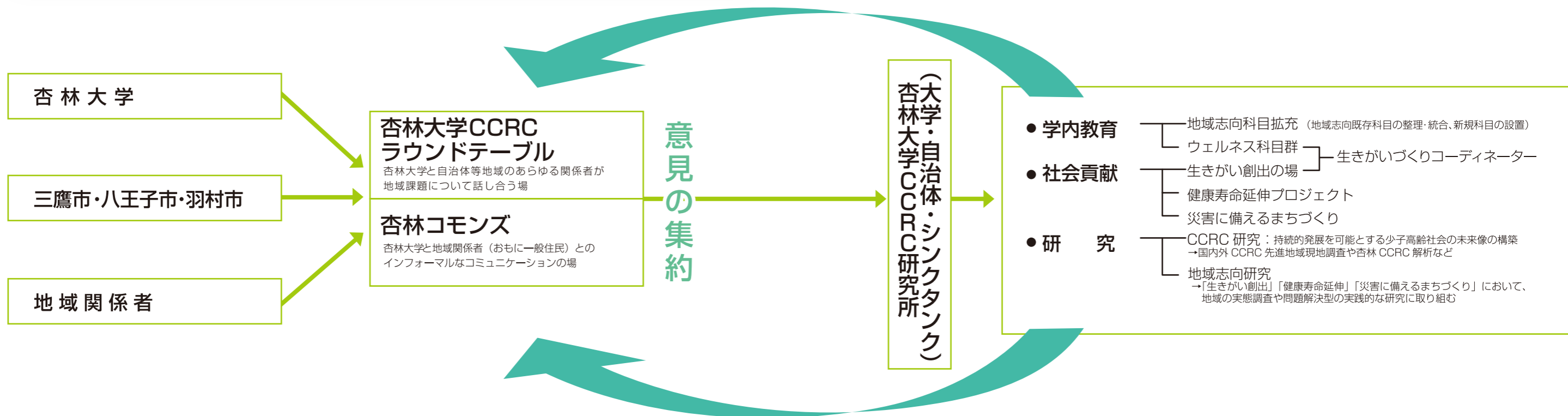
羽村市と杏林大学が、これまで充実した連携事業を展開させて頂いておりますことは、杏林大学の跡見学長を始め、関係者の皆様のご尽力の賜物と、心より感謝申し上げます。

地(知)の拠点整備事業の推進は、羽村市の地域性や特殊性を生かし、より一層自立性を高めていく原動力になるものと大きな期待を寄せており、杏林大学の更なるご発展にもつながるものと確信しておりますので、羽村市といたしましては、本事業に全力で取り組んでいく所存であります。



「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」事業について

杏林CCRCの全体像 Center for Comprehensive Regional Collaboration



1 杏林大学と地域とのかかわり

本学は医学部と保健学部（看護学科の一部）のキャンパスを三鷹市、保健学部・総合政策学部・外国語学部の3学部のキャンパスを八王子市に置いています。平成28年には三鷹市に新キャンパスを設置して教育・研究機能を集約し、さらなる発展を図る予定です。

現在、地域は日々の暮らしに関わる問題から、社会や経済の活性化、災害等の危機管理まで、時代の変化に伴う新しい課題に直面しています。本学では、これらの課題に対して4学部の垣根を越えた学際的な視点を加えた上で、東京都三鷹市・八王子市周辺の関係者と協働機会を増やす改革を進めてきました。その成果は公開講演会や市民大学への講座提供を通じて、地域社会に還元しています。

さらに、大学を有していない自治体を対象に教育・研究・社会貢献の一体的提供を行うことを企図し、

平成19年より東京都羽村市との協力関係を進めてきました。平成22年には同市と「包括連携協定」を締結し、連携活動を継続して行っており、大学を有していない自治体における「地域と大学の地（知）の連携事業」のモデルとなりました。また、平成24年には「地域交流推進室」を設置し、「地域志向」の全学的な取り組み組織として位置づけてきました。

これまで本学との連携を進めてきた三鷹市・八王子市・羽村市は、いずれも都心部在勤者の居住地であり、退職し地域に戻った団塊世代の健康、地域内コミュニケーションの希薄化等、それぞれに程度や構造は若干異なるものの共通の課題を有しています。

また東日本大震災以降、関東地域での大災害に対する各自自治体による対応策もその整備が急務となっています。

2 事業の概要

本事業では、三鷹市・八王子市・羽村市との連携に基づき、本学4学部の教育・研究資源を動員し、包括的な地域連携を推進する「杏林CCRC:Center for Comprehensive Regional Collaboration」を構築するため、この拠点として「杏林CCRC研究所」を三鷹市三鷹産業プラザ内に設置しました。

杏林CCRC研究所では、平成28年の三鷹市への教育・研究機能集約を目的に平成25年度からCCRCについて集中的に研究を行い、教育・研究・社会貢献の体制を強化します。また、地域との協働による課題解決を通して地域志向かつ問題解決力を持つ学生を育成し、なおかつ新しい都市型高齢社会の姿を模索します。その中で、『都市型高齢社会の健康と安心』を主題に、学生と地域関係者が共に学ぶ「生きがい創出」、退職団塊世代の「健康寿命延伸」、大規模自然災害

に備える「災害に備えるまちづくり」について、まずは本学の教育・研究機能が集中する予定の三鷹市を中心に取り組みを進め、次に八王子市・羽村市にもその成果を反映していく予定です。

本学は良医を育成する医学部、健康づくりをはじめとして助産から高齢者のリハビリ・生活支援までを扱う保健学部、社会問題を俯瞰的視野で扱う総合政策学部、創造的なコミュニケーションとホスピタリティのプロを育成する外国語学部からなり、都市型高齢社会が抱えるさまざまな課題を解決する教育・研究資源を有しています。本事業を実現することにより、本学と地域社会の知の統合を目指す「Center for Comprehensive Regional Collaboration: 杏林CCRC」の形成を目指します。



3 杏林CCRCの具体的な取り組み

1 学内教育

地域志向科目の充実

地域における大学の役割を理解するための科目を全学部の1年生に対して必修として設定します。あわせて、実践型「プロジェクト演習科目」として既存科目の地域志向化・一部科目の新設を行い、大学と地域との包括的な連携体制を通じて吸い上げられた地域課題を題材とした問題解決力養成の場とします。

ウェルネス科目群

プロジェクト演習科目も含めた地域課題に関わる科目を「ウェルネス(生きがいづくり)科目群」として編集し、地域住民の学びの場としても展開していきます。

地域志向科目の紹介

地域を学習のフィールドとすることで、学生の学びの実質化を図り、より実践的に「人のために尽くす」人材育成を行っていきます。

医学部

●3自治体の地域医療機関や医師会と、医療と教育の両分野における密接な連携と協働

●本学医師の地域医療への参加のみならず、地域医師の教育参加

●東京都地域枠「10名/年」の受け入れ

保健学部

●学校での保健教育への積極的協力、地域での健康教育活動

●特に「健康寿命延伸」のため、各地域での「体力作り講習」「AED(自動体外式除細動器)講習」「感染症等予防講座」「介護講習」「子育て支援プログラム」等を実施

総合政策学部

●地域関係者の要請に基づく公開講座や講演会を定期的に開催することで学際的な情報提供活動・生涯学習の場を提供し、「地域内コミュニケーション再生」に貢献

外国語学部

●「小中学生を対象とした語学教育」、「外国人観光客に対する学生の通訳ボランティア」等の活動を推進し、「地域内コミュニケーション再生」に貢献

2 研究

CCRC研究所の開設

4学部の教育・研究資源を動員し、大学と地域との包括的な連携体制(杏林CCRC: Center for Comprehensive Regional Collaboration)を推進するため、「杏林CCRC研究所」を新たに三鷹市三鷹産業プラザ内に開設しました。

地域志向研究

「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えたまちづくり」をテーマに、地域の実態調査や問題解決型の実践的な研究に取り組みます。

3 社会貢献

社会貢献の強化

「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」の3テーマを中心に、健康教育活動など4学部の地域を舞台とした取り組みを、本事業における「地域志向教育研究費」などを通じて支援・促進していきます。

生きがいづくりコーディネーター

杏林CCRCラウンドテーブルや杏林 commons等で吸い上げた地域課題をテーマとして、その解決を図る科目を新設します。授業内で扱う課題は最小1年単位で取り組むものとし、各学部におかれた「プロジェクト演習科目」のテーマとした上で、併せて課題の内容に対応する4学部の講義科目を「ウェルネス科目」として指定し、学部の垣根を越えて学生が履修できるように履修体系の整備を行います。

これにより、学生は地域課題を題材に、少人数で実施されるディベート形式のPBL(Problem Based Learning)型演習を通じて、課題解決力の涵養を図ります。この科目群は一般市民にも公開され、一定の学びを終えた地域関係者および学生に対して、本学より「生きがいづくりコーディネーター」の資格を認定していきます。





杏林大学

杏林大学CCRC 研究所

〒181-8525 東京都三鷹市下連雀3-38-4
三鷹産業プラザ309

Tel:0422-29-9576 Fax:0422-29-9586
ccrcoffice@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林大学 地域交流課

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476

Tel: 042-691-8725 Fax: 042-691-3809
[http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/society/
area@ks.kyorin-u.ac.jp](http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/society/area@ks.kyorin-u.ac.jp)